2019 年 2 月 19 日

PhillipCapital
Your Partner In Finance

フィリップ証券株式会社

DBS グループ・ホールディングス（DBSM）

2018/12 通期は 28.1%増益、2019/12 期は融資増と純金利マージン改善見込み、香港と中国本土での拡大に期待

シンガポール | 銀行 | 業績フォロー

BLOOMBERG DBS:SP | REUTERS DBSM.SI

- 2018/12 通期（1-12 月）は、総収益が前期比 10.6%増の 131.83 億 SGD、純利益は同 27.6%増の 55.77 億 SGD。
- 運用資産増と純金利マージン改善が正味受取収益に寄与。非金利収益もウェルスマネジメントやクレジットカードが牽引し好調。
- 2019/12 通期の会社計画は、融資残高の増加率が 5%前後、総収益の伸び（%）が 1 桁台後半。香港や中国本土での収益拡大に期待。

What is the news?

2018/12 通期（1-12 月）は、総収益が前期比 10.6%増の 131.83 億 SGD、純利益は同 27.6%増の 55.77 億 SGD、調整後 EPS は同 27.8%増の 2.16SGD だった。総収益のうち、貸出利鞘である正味受取収益は、同 14.9%増の 89.55 億 SGD。融資残高と有価証券残高が伸びたことで、為替変動を除くベースの期中平均運用資産が同 8.6%増の 4,833.90 億 SGD となったこと、および純金利マージン（NIM）がシンガポールドルや香港ドルの金利上昇などを背景に 1.85%と前年から 10bp 上昇したことが寄与した。ブローカレッジや投資銀行、クレジットカードなどの受入手数料を含む正味非金利収益は同 6.0%増の 27.80 億 SGD。クレジットカード手数料が同 31.5%増、ウェルスマネジメント手数料が同 18.1%増と寄与した。その他非金利収益は同 4.2%減の 14.48 億 SGD、投資有価証券からの収益減少が響いた。費用面では経費率が 44.0%と前年から 1.0%悪化したが、石油・ガスサポートサービスのエクスポージャが縮小したことから貸倒引当金繰入額が 7.10 億 SGD と同 54.0%減少したことが寄与した。2018 年末の融資残高は同 6.8%増の 3,450.03 億 SGD。NPL レシオ（不良債権比率）は 1.5%と前年同期の 1.7%から改善。預金残高は同 5.4%増の 3,937.85 億 SGD 増。預貸率は 87.6%と前年同期の 86.5%から改善。

地域別の業績は以下の通り。シンガポールは総収益が同 5%増の 81.7 億 SGD、純利益が同 23%増の 37.6 億 SGD。香港は総収益が同 23%増の 27.4 億 SGD、純利益が同 37%増の 13.6 億 SGD といずれも過去最高を記録。その他中国本土は総収益が同 31%増の 11.2 億 SGD、純利益が同 3 倍以上増の 2.75 億 SGD。南アジア・東南アジアは総収益が同 14%増の 7.92 億 SGD、純利益が同 41%減の 0.43 億 SGD。その他地域は、総収益が同 0.04 億 SGD 増の 3.56 億 SGD、純利益が同 5%増の 1.82 億 SGD だった。

How do we view this?

2019/12 通期の会社見通しは、融資残高の増加率が 5%前後、純金利マージンの改善継続、総収益の伸び（%）が 1 桁台後半、経費率が 43%である。また、貸倒れ懸念債権の割合はサイクル平均水準とし、ROE の改善が継続するものと見ている。2018 年に引き続き、香港や中国本土の収益拡大に期待がかかる。2019/12 通期の市場予想は、当期利益が前期比 10.8%増の 61.80 億 SGD である。

業績推移　※参考レート 1SGD=81.52円

事業年度	2016/12	2017/12	2018/12	2019/12F	2020/12F
純利益（百万SGD）	4,238	4,371	5,577	6,180	6,678
EPS（SGD）	1.66	1.71	2.16	2.41	2.61
PER（倍）	15.18	14.74	11.67	10.46	9.66
BPS（SGD）	17.59	18.56	19.22	19.80	21.09
PBR（倍）	1.43	1.36	1.31	1.27	1.19
配当（SGD）	0.60	0.93	1.20	1.24	1.31
配当利回り（%）	2.38	3.69	4.76	4.92	5.20

（出所：Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg）

配当予想（SGD）	**1.24**	（予想はBloomberg）
終値（SGD）	**25.20**	2019/2/18

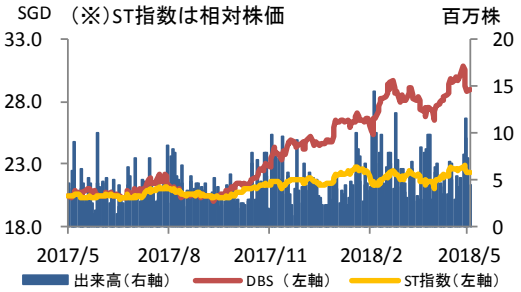
会社概要

1968年にシンガポールの工業化推進と金融センターとしての発展に必要な開発資金の融資を行う目的のもと、「シンガポール開発銀行」として設立した世界的な金融サービスグループ。18ヶ国で280以上の支店を展開する。アジアの中心的な商業銀行として、「Asia Way Banking」という独自のブランドのもと、アジア経済の長期的なポテンシャルを引き出すことに注力している。アジア経済の成長ドライバーとして中国本土、南アジア、東南アジアの3つ地域を掲げ、貿易や投資の仲介に取り組んでいる。また、デジタル技術の活用にも積極的に取り組んでいる。

シンガポール本国では、DBS銀行とPOSB（People's Bank）のフランチャイズチェーンを通じ、マス・マーケットを含めた全顧客セグメントに商業銀行業務・投資銀行業務・証券業務のほか、リース・ファクタリングなどユニバーサルバンク・サービスを提供する。それ以外の地域では、コーポレート・投資銀行業務、中小・零細企業向け与信業務、ウェルスマネジメント業務の3つの業務に注力している。

企業データ（2019/2/19）

ベータ値	1.27
時価総額（百万SGD）	64,468
企業価値=EV（百万SGD）	-
3ヵ月平均売買代金（百万SGD）	88.7



（出所：Bloombergをもとにフィリップ証券作成）

主要株主（2019/2）　（%）

1.テマセク・ホールディングス	29.93
2.CAPITAL GROUP COMPANIES INC	3.76
3.VANGUARD GROUP Inc	2.27

（出所:Bloombergをもとにフィリップ証券作成）

アナリスト

笹木 和弘

kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp

+81 3 3666 6980

増渕 透吾

togo.masubuchi@phillip.co.jp

+81 3 3666 0707

【レポートにおける免責・注意事項】
本レポートの発行元：フィリップ証券株式会社 〒103―0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号
TEL:03-3666-2101 URL：http：//www.phillip.co.jp/
本レポートの作成者：フィリップ証券 リサーチ部
公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘
公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員補 増渕透吾

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

＜日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項＞